

筑豊ブロック少年団体等指導者研修会 福岡県プレイリーダー2級研修会

本研修会は、子どもと関わる体験活動指導者を対象に、持続的に体験活動を行っていくために、多くの参加者を募ることができる会の在り方や子どもが主体的に活動することができる体験活動の指導方法について理解を深めることを目的に実施しました。管内の子ども会関係者や行政職員、アンビシャス広場関係者等28名の参加者が一緒に学びを深めました。

研修1 <実践発表>

「持続的に活動する子ども会活動の取組について」

苅田町子ども会育成連合会 会長 田口 朝子 氏

田口氏から、多くの子どもが集う子ども会活動を行っていくための運営方法について発表していただきました。

【実践からの学び】

- ・「楽しい活動」「ワクワクする活動」「非日常的な活動」をコンセプトに企画立案をすることで、子どもたちのニーズに沿った活動を実施することができ、持続可能な子ども会活動になること。
- ・子ども会のスタッフ同士が、楽しいことや感動したことなどを共有したり、スタッフの様々な能力の価値を認め合ったりする環境づくりを行うことで、子ども会運営が活性化し、持続的な子ども会活動になること。



研修2 <演習・講話>

「活動を通じた学び

～子どもが主体的に活動できる体験活動の指導方法について～

子ども支援ネットワーク With Wind 代表 藤原 浩美 氏

藤原氏による演習・講話では、子どもたちが主体的に活動することができるように、体験活動の指導方法について御教示いただきました。

【演習からの学び】

- ・子どもたちが遊びの中で身につく力を高めるための指導者の役割は、子どもたちの意欲を喚起するような自然環境を活かした活動や子どもたちがチャレンジしたいと思う活動を仕組むことであること。

【講話からの学び】

- ・安心して子どもたちが活動できるように、ハザードを取り除き、より高い安全管理を行うことが体験活動を指導する上で、最も大切であること。
- ・子どもたちが想像力を発揮して活動するために、指導者が、子どもたちにとってやや困難な課題を設定し、課題克服ができる体験活動を計画すること。
- ・主体的に子どもたちが活動するために、子どもたちの活動を温かく見守ることも、指導者にとって大切な関わりであること。

これらのことから、演習・講話を通じて、子どもの主体性を高めるために、子どもたちが意欲的に活動できる場の設定や活動の中での指導者の関わり方について、学びを深めることができたと考えます。



研修を終えて

研修後のアンケートには、「活動の際には、子どもに任せることは任せ、大人は見守ることも必要だと思った」「持続的に子ども会活動を行うには、役員の『人を知る』『特技を生かす』『居場所をつくる』ことが大切だと思った」等の感想がありました。

本研修会を通して、持続的に体験活動を行っていくために、多くの子どもが集うことができる会の在り方や子どもが主体的に活動することができる体験活動の指導方法について学んでいただくことで、必要な知識・技能の理解を深め、実践意欲の向上を図ることができました。今後、体験活動のイベントを通し、子どもたちが「楽しい!」「また参加したい!」という声がたくさん上がることを願っております。